

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第129回 ●

■ チーム世界戦③

今回も前回の続き、チーム世界戦の局をお届けしよう。最終的には中国が上位3位を独占し、本場に強い国になったと感じさせた。ただ、日本チーム1が4位に入り、神谷名人なら互角以上に戦っていたのでまだまだ巻き返せるチャンスはある。そのためには層を厚くする必要があるので。

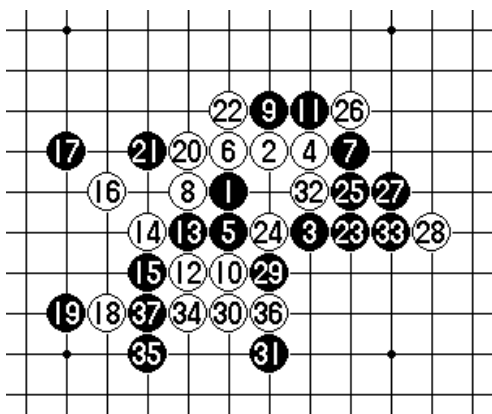
今回は前回に引き続き6回戦から見てみよう。

● 6回戦

黒 ロシア Peter Burtsev

白 日本2 宮本俊寿

宮本さんは世界戦初参加で、いろいろ勉強になったことだろう。トップレベルの対局を感じることは、上達するのに必要なことだ。

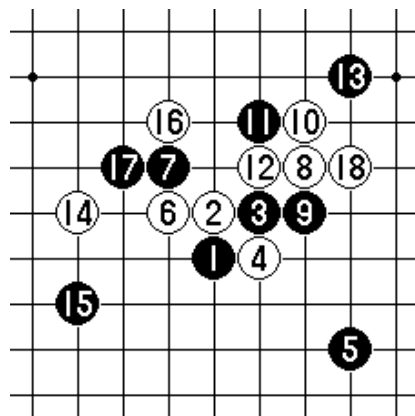


水月からの展開はA級リーグでも経験があるため、安心したことだろう。ただ、白20、22は勝負を急ぎすぎた。この手がけん制になっていけば良いが、黒23からきれいに勝たれてしまった。こういう所を逃さないのがトップレベルで、黒25、27が利くと白30とノリ手が打たれても四迫が残る。最後は両ミセが残った。

● 6回戦

黒 マカオ Lee Chi Son

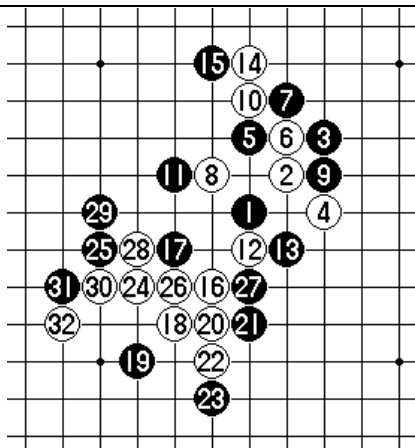
白 日本1 岡部寛



本回戦から遅れて岡部九段が参加。日本チームにとっては朗報だ。早速マカオ戦に投入された。黒15はあれ？打ち間違いかと思ったりが、さすがに白の貫録勝ちになった。2011年のホームペーJで調べると、相手の選手は2011年生まれ！だった。日本だと中学1年生だが、世界戦では容赦ないのはやむを得ない。今回、参加選手のことを調べたら、中学生も結構いた。強豪国において、連珠の低年齢化が今後も進んでいくことだろう。

● 7回戦

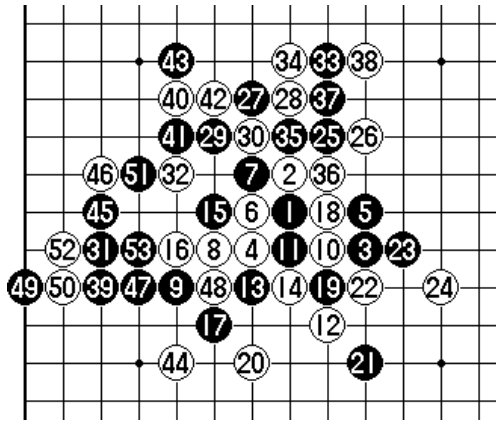
黒 日本2 東陽晃龍
白 台湾 林書玄



東陽君は大学生で意欲も才能もあるのだが、他にもやることも多いようだな。なか連珠に集中してもらえない。今回世界戦に出場していい経験を積んだので、末永く連珠を楽しんでもらいたいと願っている。さて、長星黒番とは言え負けるのが早かった。黒は3・7の連が残っているうちに攻めたかった。黒15は石の流れだが、白16から速攻を喰ってしまった。

● 7回戦

黒 日本1 岡部 寛
白 ロシア Danila Gromov

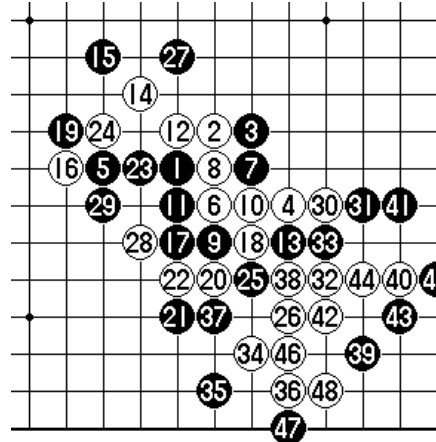


ここからの踏ん張りは岡部九段の勝負強さによるものだった。まずはロシア戦から。新月から結局は瑞星の定型に戻った。こうなると経験豊富な岡部君の方が有利になる。白12に黒13は昔よく打たれたが、すっかり忘れてしまっている。黒25と叩いた姿は早くも負けない形になっている。上下にゆきぶりをかけ黒39

に手をまわしては必勝となつた。

● 8回戦

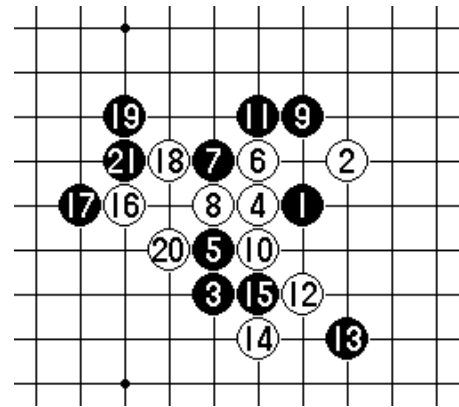
黒 日本1 神谷俊介
白 中国3 Wan Junhong



本局は「魔さか！」の展開となつた。3位を争う中国3との直接対決、特に四神谷名人は確実に白星をあげておきたい。ところが、である。白16までの三々禁狙いをうまく処理したもの、下辺の猛攻をしのぎ切れなかった。黒35は実は反対止めで良かった。白40を打たれては防ぎがない。

● 9回戦

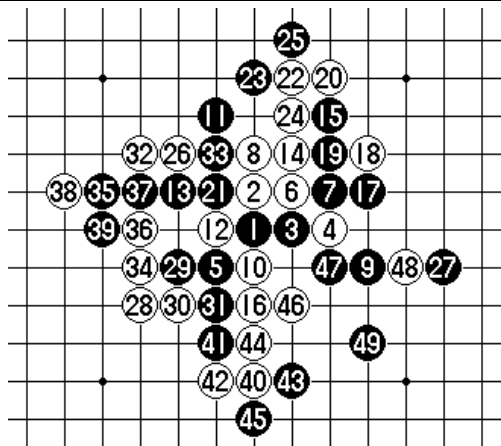
黒 日本2 藤田麻衣子
白 韓国 Park Doyoung



とうとう最終9回戦となつた。藤田さんの最終局を紹介しよう。彗星疎星共通型は、黒7、9という手が現れてからまた打たれ始めた。黒11、13、17はいずれも絶対で、落ち着いて止めている。ここで白18、20がとんでもない勘違いで、黒21で自然に勝ちが転がり込んできた。これも日頃の行いだらうか。

● 9回戦

黒 日本1 岡部 寛
白 中国1 呉 摘



最後に優勝した中国1と当たつた。ここでも勝利したのは岡部九段だけだった。相手は Wu Di (呉摘)。Wu Di は07年のATを優勝しているが、その時も岡部君は当たっている(その時は岡部負け)。17年後にこのような形で当たるのも連珠ならではである。本局は斜月共通型で白の攻めを凌いだ黒が快勝した。日本1は0.5ポイント差で4位だった。